

2008年度大学入試センター試験 解説〈地理B〉

第1問 世界の自然環境に関する問題（配点 16）

第1問には、世界地図を用いた自然環境に関する問題が置かれることが多い（2005年度・2007年度など）。大部分は基礎的事項から出題されるので、落ち着いて対処したい。本年では、問2・4・6などで迷ったケースも考えられるが、あまり難しく考えない方がよい。

問1 1 正解は④。

d地点：ヨーロッパ地中海に位置するイタリアの首都（ローマ）である。したがって、地中海性気候（Cs）の特徴である夏季乾燥・冬季湿潤の傾向がはっきりと表れている④が該当する。

a地点：アメリカ合衆国北東部のコロンバスであり、冷帯湿潤気候（Df）なので③が該当する。

b地点：アメリカ合衆国西部のデンバーであり、温暖湿潤気候（Cf）だがやや乾燥するので②が該当する。

c地点：中国の東北地方ターリエン（大連）であり、冬にシベリア高気圧の影響で乾燥する冷帯冬季少雨気候（Dw）の①が該当する。

問2 2 正解（適当でないもの）は②。

② 誤り。ひとことと言えば「台風は赤道上では発生しない」。これは図1からも読み取れる。台風のエネルギー源は、水蒸気が高温の海面からの上昇に伴い放出する凝結熱である。その発生地域は、中緯度高圧帯（亜熱帯高圧帯）の小笠原高気圧から吹き出す北東貿易風と、赤道を越えて吹き込む南東貿易風がぶつかり合う赤道低圧帯（熱帯収束帯）であり、具体的にはフィリピン東方の北緯15°付近（北緯5°～25°）である。したがって②の「赤道上で発生しやすい」の部分が誤りとなる。

① 正しい。上記の通り海面水温が26℃以上の暖かい海域で発生する。

③ 正しい。発生した台風は、貿易風（偏東風）により太平洋高気圧の縁に沿って西進し、のちに北または北東に進路を変える。高気圧から吹き出す時計回りの空気の流れに沿うのである。したがって、この高気圧の位置が台風の進路を左右する。

④ 正しい。中緯度上層部の偏西風（ジェット気流）は日本付近にも年中吹いている。

問3 正解は⑤

F：北アメリカ大陸のハドソン湾周辺に位置するカナダ楕状地（安定陸塊）である。楕状地とは、先カンブリア代の造山運動の後はゆるやかな造陸運動のみを受け、長い間の侵食によって岩石が露出した平坦な地域である。

G：新期造山帯である環太平洋造山帯の一部を成すカムチャツカ半島である。アリューシャン列島や千島列島などに連なる変動帯で、地震や火山活動がさかんである。

H：古期造山帯のスカンディナヴィア山脈が走るスカンディナヴィア半島西部である。西岸には氷河の侵食による入り江であるフィヨルドが発達している。（半島東部は、バルト海に面するバルト楕状地の一部となっている。）

以上より、アはH、イはF、ウはGが該当する。

問4 正解は③

カ：始点（O）近くはタリム盆地を示すが、その先は高度4000mの高原が大きく広がっており、クンルン（崑崙）山脈～チベット（チンツァン＝青蔵）高原を表している。よってLに該当する。

キ：始点近くに高い山地が見られるが、その先は低平な平原が続いている。これはタリム盆地北のテンシャン（天山）山脈および西シベリア低地を表しており、Kに該当する。テンシャン山脈は古期造山帯であるが、ヒマラヤ山脈形成時の影響で高峻になっている。

ク：始点から順に高原→低地→山地と並んでいる。これらはパミール高原、カラクーム砂漠付近、エルブールズ山脈を表しており、Mに該当する。この図ではカスピ海が省略されているので注意が必要である。

問5 正解（適当でないもの）は②。

② 誤り。Pの島々はモルディブ諸島である。ヒマラヤ山脈を含むアルプス＝ヒマラヤ造山帯などのプレート境界部からは離れた位置にあり、火山活動や地震活動は見られない。同様の内容が2002年度本試でも出題されている。

① 正しい。標高の低いサンゴ礁（すべて環礁）の島々であるため、海面上昇が国家の危機となる。モルディブと地球温暖化については2002年度の地理A追試などでも出題された。

③ 正しい。2004年のスマトラ沖地震の際には首都マレの3分の2が水没した。

④ 正しい。モルディブの実質GDPの約4割は漁業と観光による（外務省HPより）。

問6 正解は②。

海洋からの湿った風が山地（図4の網部分）に当たると、上昇気流となって雲を作り雨を降らせる，という原理を考えれば，7月の降水量が島の東（南東）で多く，西（北西）で少ないことから，7月の卓越風向は東（南東）とわかる。

なお，X島はマダガスカル島である。南東貿易風の影響により赤道から離れているにもかかわらず島の東側に熱帯雨林気候（Af）が分布し，また島の南西部には砂漠気候（BW）およびステップ気候（BS）が分布することで有名である。

第2問 世界の資源と産業に関する問題（配点 16）

2007年に引き続き第2問は世界の工業を中心とした出題となった。工業については2005年度から連続して出題されている。テーマだけでなく出題形式の面でも前年と類似しており，過去問研究の重要性を印象付けた。ただ，難易度の面ではやや易しかったといえよう。

問1 正解は③。

ボーキサイトとは，アルミニウムの原料となる鉱物で，ラトソル土壌の分布する熱帯・亜熱帯地域での産出が多い（1位オーストラリア・2位ブラジル・3位ギニア・4位中国・5位ジャマイカ＝2005年）。中米やアフリカの熱帯地域への分布を決め手として，イが「ボーキササイトの産出量」とわかる。

ボーキサイトからアルミニウムを生産するには，いったん化学的にアルミナを取り出した上で電気分解による精錬を行う。大量の電力を消費するため，石油危機以降の日本では発電コストが高く採算が取れない。アとウのうち，日本が上位に入らないアが「アルミニウムの生産量」とわかる（1位中国・2位ロシア・3位カナダ・4位アメリカ合衆国・5位オーストラリア＝同前）。なお，カナダ・ブラジル（6位）・ノルウェー（7位）などは水力発電により発電コストが低い。他は石炭等のエネルギー資源が豊富な国である。

他の工業の素材となるアルミニウムの消費国はおもに工業国であり，北半球の先進国や中国などが代表的である。したがって，ウが「アルミニウムの消費量」である。

問2 8 正解は③。

一次エネルギー消費量とは、発電用エネルギーの他、灯油・LPGなどの燃料、ガソリン・軽油などの運輸用石油製品、重油・コークスなどの産業用石油製品等、最終エネルギー消費に供される一次エネルギー（石油・石炭・天然ガス・原子力・水力・新エネルギー）などを石油に換算して表示したものである。

石炭の割合が高くなるのは、中国（61.7%＝2004年、『世界国勢図会』による。以下同じ）・南アフリカ共和国（72.0%）など、原油生産はそれほど多くなく、石炭産出量の多い国（1位中国・2位アメリカ合衆国・3位インド・4位オーストラリア・5位南アフリカ共和国）である。図2の中ではオーストラリア（42.7%）の石炭割合が最も高い（イギリスは16.0%、ドイツは24.7%）。オーストラリアでは石炭を露天掘りによって低コストで生産可能である。したがって凡例の③が石炭に該当する。

なお、①は天然ガス、②は石油、④は原子力を示しており、①・②の判定はやや難しい。

問3 9 正解は①。

ロシアは原油生産・天然ガス生産において世界第1位、ウラン生産で第4位、石炭生産で第6位という一次エネルギーの大生産国であるうえ、カナダ・日本・フランスなどの先進工業国と比較した場合の工業生産その他の経済活動レベルは低いため、一次エネルギーはほぼ自給が可能である。したがって、最も輸入依存率の低い①に該当する。

なお、ウラン生産が世界一で、他のエネルギー資源についてもロシアには劣るものの生産量の大きいカナダが②、国内資源は日本同様に乏しいが原子力発電の割合が高いフランスが③、エネルギー資源のほとんどを海外に依存する日本が④に該当する。

問4 10 正解は⑤。

ロシアの工業都市名を細かく暗記している受験生は少ないであろう。センター試験のみの受験であれば不要である。A→C→Bの順に検討する。

まず、Aは、ヨーロッパロシアに位置し、ロシアでは比較的人口密度の高い大都市圏である。したがって消費市場と結びついた総合的工業地域となる。よってクに該当する。また、Cは、東シベリアの内陸部に位置し、周辺はタイガ地帯であるから、先住民族との「毛皮の交易によって皮革工業」が立地する地域である。よってキに該当する。したがって、Bは残ったカに該当することになる。

なお、Aは首都モスクワ、Bはクズネツク炭田に近いノヴォクズネツク、Cはヤクート人などの居住地域に近いヤクーツクである。

問5 11 正解は③。

- ③正しい。ブラジルには、フィアット（イタリア）・GM（アメリカ合衆国）・フォルクスワーゲン（ドイツ）など欧米や日本の自動車企業が進出している。かつての輸入代替型のノックダウン生産（主要な部品を輸入し、組み立てのみを行う）から、現在では部品製造も行われており、輸出指向型生産が進められている。（なお、上記各社は近年、ブラジルを生産拠点として、ブラジルから中国へのノックダウン生産の輸出までも行うようになっている）。
- ①誤り。中南米における航空機産業は、ブラジルで小型航空機分野が盛んである。
- ②誤り。チリ経済は、今も銅・銅鉱の輸出に依存している。他の輸出品も一次産品が中心。
- ④誤り。宇宙産業は、最先端のハイテクに支えられアメリカ合衆国中心に発達している。

問6 12 正解は（適当でないもの）②。

- ②誤り。魚介類を缶詰に加工する水産加工業は、新鮮な原材料を用いるため、一般的には漁港の近くに立地する。
- ①正しい。アパレル産業のデザイン部門は、大都市に立地する傾向が強いが、衣服の縫製は労働集約的産業であり、賃金の安い農村部や途上国に立地する。
- ③正しい。例えば日本の場合、石油化学コンビナートのほとんどが太平洋ベルトの臨海部に集中する。
- ④正しい。電気製品の組み立ては、衣服縫製と同様に労働集約的である。

第3問 世界および日本の都市に関する問題（配点 16）

前年同様に第3問は都市問題に関する大問であった。都市・村落はセンター地理の定番テーマであり、2000年以降では他に2002・2004・2005年度にも出題されている。本年は、地理的知識を全く必要としない問5、常識で判断できる問6などを含み、易レベルの出題であった。

問1 13 正解は②。

直接に中央・南アジアに該当する選択肢を選ぶのは難しい。わかりやすい所から順に決めていこう。

まず、アジアは世界人口の約6割を占め、中国・インドをはじめ多数の百万都市をもつから、①に該当する。都市数の増加率がアフリカの約3倍に近い高さであることも根拠となる。一方、オセアニアは人口希薄地域であり、大都市数の最も少ない④に該当する。

残った②・③の2地域は、1980年における百万都市の数は同じだが、②は約2.5倍に増加しているが、③は増加率が小さい。したがって、政治的混乱などで人口減少国もみられるCISが③であり、中央・南アジアは残った②に該当することになる。

問2 14 正解は⑥。

アはナイジェリアである。旧イギリス植民地ナイジェリアでは、南東部の油田地帯であるニジェール川デルタに住むキリスト教徒であるイボ人が、イスラム教徒のハウサ人(北部)・ヨルバ人(西部)の支配に抵抗し独立を求めて内戦＝ビアフラ戦争を起こした。この内戦はイボ人側の敗北で終わったが、戦後に民族間のバランスを考慮して、西部のラゴスから内陸中央部のアブジャに首都が移転した。

イはトルコである。第一次世界大戦後、連合国による占領・分割に対して展開された祖国解放運動(トルコ革命)の結果、オスマン帝国時代の帝都イスタンブール(コンスタンティノープル)から中央部の高原上の都市アンカラに首都が移転した。

ウはオーストラリアである。1901年にイギリスから独立した際にシドニーとメルボルンの間で首都の座をめぐる争いが起きたため、その中間に新首都としてキャンベラが建設された。

問3 15 正解は①。

都市とは、農村に対して第2・第3次産業人口が集住する集落である。したがって一般的に都市人口率は先進国で高く、発展途上国で低い。イギリスは選択肢中で工業国としての歴史が最も古い先進国である。したがって、古くから都市人口率が高かったと考えられるので、①に該当する。

韓国は、近年の経済成長で先進国化しており、急速に都市人口率が高まったので②が該当する。

フィリピンは、韓国などのNIEsにやや遅れて工業化を進めており、徐々に都市人口率が高まってきたので③、国民1人当たり所得がフィリピンの半分程度のインドは④となる。

問4 16 正解は②。

- ②正しい。都心周辺部には、住宅と商店（卸売・小売）や工場が混在する漸移地区が存在する。古くからの市街地であり、インナーシティとよばれる。かつての居住者のうち高所得層は郊外に移住したため、低所得層・高齢者等の住む老朽化した住宅が取り残される。
- ①誤り。通勤者により昼間人口は多いが、定住者はわずかで夜間人口は少ない。したがって、昼間人口と夜間人口の差は大きい。
- ③誤り。スプロール現象とは、郊外部で都市計画が追いつかず、虫食い状に無秩序な都市化が進むことである。したがって、「鉄道に沿って」という個所が誤り。
- ④誤り。都心部から離れた臨海部であり、埋め立てなどによる広大な用地があり、地価は比較的低い。

問5 17 正解（誤っているもの）は③。

グラフを見ながら、選択肢の内容を1つ1つ吟味していけば正解は導ける。

- ③誤り。東京大都市圏以外の国内から東京大都市圏郊外への人口移動のグラフは、1970年頃にピークを迎えており、その後は漸減傾向にある。

問6 18 正解（適当でないもの）は②。

- ②誤り。エアコン利用の増加は、都市におけるエネルギー消費を増大させるため、都市の気温上昇（ヒートアイランド現象）を加速につながる。
- ①正しい。ビオトープとは生物群集の生息空間のことである。生態系を観察する環境教育のため、人為的にビオトープが再生されることがある。
- ③正しい。パークアンドライドとは、都心部の自動車交通量を減らすため、通勤者が郊外の駅やバス停で自動車を駐車し、鉄道・路線バスなどの公共交通機関に乗り換える方式のことである。日本では札幌や鎌倉などで実施されている。
- ④正しい。各家庭やビル等の建築物で雨水を貯留すると、散水や洗車等のほか、災害時の生活用水に利用できる。また、雨水の集中的な流出を抑え、都市型洪水の防止にもつながる。

第4問 南アジアの地誌に関する問題 (配点 17)

南アジア地誌が本試で大問のテーマになるのは2003年以来である。2005年の追試でもこの地域が取り上げられており、当然対策しておくべき地域であった。問4ではインドの現代経済史のやや細かい知識を、問6では民族ごとの言語名の知識を求めており、いずれもやや難しいのではないか。ただし、大問全体としての難易度は標準的である。

問1 19 正解は②

- ② 正しい。Bはガンジス川であり、下流域の三角州はガンジスデルタと呼ばれる。インドとバングラデシュにまたがる稲作の盛んな人口集中地域である。
- ① 誤り。Aはヒマラヤ山脈である。最高峰チョモランマ（エベレスト）などの山頂部では、風雪によるわずかな侵食が考えられる一方、今もわずかずつプレートの上昇による隆起があると見られる。いずれにせよ、測定誤差を超えた明確な標高の変化は見られない。
- ③ 誤り。Cはデカン高原である。ここに分布するのは、玄武岩の風化による黒色土壌のレグール土である。
- ④ 誤り。Dはセイロン島（スリランカ）である。インド半島と同じ安定陸塊であり、火山活動はない。

問2 20 正解は⑤

カトマンズ（ネパールの首都）は、沖縄とほぼ同じ低緯度でありながら、標高1300m程度に位置するため、年中温暖な温帯気候（温暖冬季少雨気候=Cw）である。降水は夏の季節風の時期に集中する。よってイに該当する。

カラチ（パキスタンの旧首都）は、大インド（タール）砂漠の沿岸部に位置する砂漠気候（BW）の都市である。よってウに該当する。

コルカタ（カルカッタ、インド東部の大都市）は、ガンジスデルタ西部に位置するサバナ気候（Aw）の都市であり、雨季と乾季が明瞭である。また、ベンガル湾で発生する熱帯低気圧（=サイクロン）の被害を受けることが多い。よってアに該当する。

問3 21 正解は⑥

小麦は、ガンジス川上流のやや乾燥するパンジャブ州などを中心に栽培される。よってクに該当する。

米は、ガンジスデルタや東部沿岸部を中心に年降水量1000mm以上の地域で広く栽培されており、キに該当する。

綿花は、主にレグール土の分布するステップ気候（BS）のデカン高原付近を中心に栽培されている。したがってカに該当する。

問4 22 正解（適当でないもの）は②

② 誤り。独立直後のインドでは、**混合経済体制**（基幹産業は国，その他の工業を民間が経営）を採用し，政府主導の工業化政策によって，豊かな鉱産資源を用いた輸入代替型の工業の発展を図った。外国からの輸入を制限し，あらゆる製品の国産化を目指したものの，経営効率の低い公営企業による国内向けの質の低い生産に留まり，国際競争力は失われた。

① 正しい。製鉄業では，**民族資本**のタタ財閥によるジャムシェドプルの製鉄所は1912年に操業を開始している。

③ 正しい。混合経済体制は，国による強い経済統制の実施が社会主義的な計画経済の性格を持つが，1960年代後半には上記のように停滞を見せた。

④ 正しい。1991年には本格的な経済自由化を行い開放体制に移行した。特にコンピュータソフトウェアなど**IT産業**の伸びは著しく，重要な輸出産業となっている。IT分野成長の要因としては，以下の点が挙げられる。重要事項なので理解しておきたい。

- i) **英語**が堪能な人材が多く，また，**数学教育**に力を入れてきた。
- ii) 高等教育を受ける割合は低い，人口が巨大なため理工系大学卒業生が多い。
- iii) そのため安く質の高い労働者が豊富。
- iv) インターネット・通信衛星を背景に，**時差**を利用して，アメリカ合衆国やヨーロッパの業務を受け継ぐことができる。

問5 23 正解は②

Pはインドである。輸出入ともにみられる「ダイヤモンド」に注目したい。インドではダイヤモンドの産出は少ないが、海外から輸入したダイヤモンド原石を研磨し、宝飾品に加工して輸出している。ここでも安く豊富な労働力が活躍している。

Qはパキスタンである。輸出にみられる「米」に注目したい。乾燥気候であるため米の生産は特に盛んとはいえない（世界第12位[2005年、『世界国勢図会』による、以下同]）が、世界第4位の米輸出国であることに注意が必要である。インダス川流域のパンジャブ地方では、イギリス植民地時代に灌漑設備が整備されており、高収量品種を導入する「緑の革命」によって小麦だけでなく綿花や米の生産も増大した。モンスーンアジア諸国では米は自給的に生産されているが、小麦を主食とするパキスタンでは、生産量の約半分を中東諸国などへの輸出に回している。

Rはスリランカである。輸出の「茶」に注目するとよいだろう。代表的な茶のプランテーション生産国であり、生産は第4位、輸出は第3位と上位に名を連ねている。

問6 24 正解は③

南アジアでは、パキスタンとバングラデシュ、モルディブの3カ国がイスラム教国である。したがって、①か③に絞ることができる。両国の言語が決め手となるが、バングラデシュの国名は「ベンガル人の国」を意味しており、その言語はベンガル語である。毎年のようにバングラデシュを襲うサイクロンが「ベンガル湾」で発生することなどから推理することもできる。

- ① パキスタンの説明である。インドのジャンム=カシミール州でも使われるウルドゥー語を国語とし、英語を公用語としている（しかし、両語を母語とする人口はわずかで、実際にはパンジャービ語・パシュトゥー語などの話者が多い）。
- ② スリランカの説明である。多数派のシンハリ人と少数派のタミル人の民族紛争が長年続いている。
- ④ ネパールの説明である。インド=ヨーロッパ語族のネパール語が国語となっている。

第5問 現代社会の社会的課題に関する問題 (配点 17)

本問のような主題の下で、人口問題・都市問題・民族問題などに関して総合的に出題する形式は、センター地理において恒例の出題パターンとなっている。本年の出題では、基本的な知識と理解があれば手が止まるような設問は見当たらず、やや易しい。

問1 25 正解は⑥

女性議員の割合は、その国の女性の社会進出の度合いを示す指標のひとつである。女性議員割合の高い国としては、i) 北欧諸国 (スウェーデン・ノルウェー・フィンランドなど) ii) 社会主義国 (キューバ・ベトナム・中国など) などが挙げられる。逆に割合の低い国はイスラム圏に多い。したがって、割合の高い方からA→B→Cの順になっていることがわかる。

問2 26 正解は②

本問で注意したいのは、図2は2000年時点の人口ピラミッドであり、図3は2030年までの将来予測を含んだ65歳以上人口割合の推移であることである。「30年後にはどうなるか」を考えて判断したい。

E: 2000年時点でつぼ型を示しており、3つの中で最も高齢者の割合が高い (ピラミッドの上方の幅が広い) が、30~40代の人口規模はそれほど大きくはないため、将来の高齢者割合はそれほど急激に上昇するとは考えられない。よってアに該当する。

F 2000年時点では釣鐘型を示し、3つの中で高齢者割合は最も低いが、今後徐々に割合が高まっていくことが予想されるので、ウに該当する。

G 2000年時点ではEと同様につぼ型に分類されるものの、30~40代の世代の人口規模が特に大きいので、2030年ころまでに急激に高齢者割合が高まると考えられる。よってイに該当する。

問3 27 正解（適当でないもの）は③

- ③ 誤り。不衛生な不良住宅地区（スラム街）は、人口の集中する**都市部**に形成される。発展途上国では、人口が急増しても貧困を抱える農村部では就業機会を得られず、失業が増える。余剰労働力は都市に集中するが、そこにも就業機会はなくスラムができるのである。
- ① 正しい。医療援助や公衆衛生の改善が伝染病の発生を抑え、乳児死亡率は急激に低下した。一方、貧しい農村の人々にとって、子どもは貴重な労働力となるため出生率は低下せず、人口の急増につながった。
- ② 正しい。女性の教育からの障害が、社会的地位の低さに結びつき、早婚・多産につながる。また、識字率の低さが家族計画の普及を困難にしている。
- ④ 正しい。路頭で暮らす子どもたちは、物売りや物乞い、時には犯罪や児童買春などによって生活しており、背景に親の貧困・虐待・搾取などが存在する場合もある。

問4 28 正解は④

- ④ 正しい。カナダの多数派民族はイギリス系住民だが、東部に位置するケベック州では**フランス系住民**が多数を占めている。カナダでは、さまざまな民族と文化の混在を積極的に評価する**多文化主義**を採用しているため、英語のほかにフランス語も公用語になっている(ケベック州ではフランス語のみが公用語)。ケベック州の分離独立を求める運動も根強いが、1995年に行なわれた住民投票では、わずかに独立反対派が上回った。
- ① 誤り。北アイルランドの少数派はカトリックの**ケルト系民族**で、イギリス政府への抵抗を続けてきた。
- ② 誤り。旧ソ連では、少数民族は多数派のスラブ民族に支配されていた。ソ連崩壊をきっかけに、それまで抑圧されていた民族問題が各地で激化した。チェチェン紛争はその代表例である。
- ③ 誤り。ラテンアメリカ諸国の多くがスペイン語圏であるのに対し、ブラジルの主要言語は旧宗主国の言語である**ポルトガル語**である。

問5 29 正解は②

ドイツは、第二次世界大戦後に東西に分断されたが、高度経済成長を果たした西ドイツでは深刻な労働力不足からトルコをはじめ南欧諸国から外国人労働者を公式に受け入れた。石油危機後は受け入れを停止したが、過去の移民の多くはドイツに定住している。東西ドイツ統一後は、とくに旧東側での失業率の高さから外国人労働者の存在が問題になることがある。したがって、「トルコ」が1位の②に該当する。

なお、スウェーデンは同じ北欧諸国が並ぶ④、スペインは旧植民地のエクアドルやコロンビアを含む③、フランスも旧植民地のアルジェリアやモロッコを含む①に該当する。

問6 30 正解は③

カの文は、「ユダヤ人国家」(＝イスラエル)の建国によってアラブ系のパレスチナ難民が発生したことに端を発するパレスチナ紛争を表している。したがって、中東に位置するイスラエルを示したLに該当する。

キの文は、東欧民主化によって国の体制が崩壊した旧ユーゴスラビアの紛争を表している。ボスニア＝ヘルツェゴビナ内戦による難民、コソボ紛争によるアルバニア系難民、その後のセルビア系難民(国内避難民)など数多くの問題が生じた。よって、バルカン半島に位置する旧ユーゴスラビアを示したKに該当する。

クの文は、「干ばつなどの災害」から乾燥気候の広がるソマリアでの内戦を表している。よって、Mが該当する。1980年代末から始まった内戦による難民は現在でも40万人以上を数え、ケニアをはじめとする周辺諸国で帰還の日を待っている。

第6問 地域調査(広島市)に関する問題(配点 18)

例年通りの、日本のある地域を題材にした地域調査に関する大問である。本年は広島市であった。難問が目立った前年と違い、常識的に判断できる設問が目立ち、難易度的にはかなり易しい差の付きにくい大問であった。

問1 31 正解（適当でないもの）は①

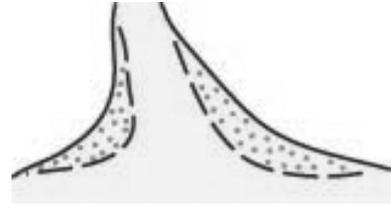
- ① 誤り。住宅地図とは、各戸別の居住者名を表示した地図である。多くの場合、民間の地図業者が表札に表示されたものを現地調査によって編集する。したがって、家族構成や年齢等は読み取ることはできないので、人口構成や少子高齢化の状況は調べられない。
- ② 正しい。国土地理院の地形図も空中写真を利用して作成されている。立体視による地形の確認や、新旧写真の比較による住宅地の広がり様子の観察が可能である。
- ③ 正しい。GIS（地理情報システム）とは、地理情報をコンピュータ向けのデータベース化し、取り出し・解析・加工・組合せを簡単にできるようにしたものである。くれぐれもGPS（汎地球測位システム）と間違えないようにしたい。特定の情報を表示する主題図や、ハザードマップのようなシミュレーションマップなどが作成できるので、行政・地域研究・ビジネスなどに応用されている。
- ④ 正しい。インターネットで情報を入手することは、地域調査の有効な手法の1つである。

問2 32 正解は①

- ① 正しい。階級区分図（コロプレスマップ）とは、「人口密度」のような相対的な統計数値の階級に応じて、国・都道府県・市町村などの地域ごとに塗りわけたものである。「人口」のような絶対的な統計数値の分布を示すには不適切であることも合わせて理解しておこう。
- ② 誤り。流線図は、人や物資の移動量を矢印の幅で表現したもので、貿易統計などに用いられる。「県内の市町村別の野菜の生産量」の表現には不適切である。
- ③ 誤り。等値線図は、等高線や等温線、等降水量線などに用いられるもので、「広島への国別の観光客数」の表現には適さない。
- ④ 誤り。ドットマップは、人口・家畜・生産量・工場数などの分布を点で表現したものであり、「広島市からのフェリー航路」の表現には適さない。

問3 33 正解は④

南側の沿岸に干潟を示す点描が見られる。なお、現在の「干潟」を示す地図記号は以下の通り。干潟とは、干潮時には水面上に出て、満潮時には水面下に没する砂、泥等からなる平坦な地域をいう。広島市の市街地は三角州上に形成されているが、三角州は河川に運搬された土砂が河口付近に堆積したものであるから、その沖にも堆積物が連続的に広がり、これが干潟になることは想像できるだろう。



- ① 砂州とは沿岸流によって堆積した土砂が、対岸近くまで細長く伸びたものである。
- ② リアス式海岸とは、侵食を受けた山地が沈水によって連続的な入り江になったものをいう。
- ③ ラグーン（潟湖）とは、①の砂州によって海面の一部が切り離されてできた湖をいう。

問4 34 正解（適当でないもの）は②

② 誤り。東練兵場の位置には、「二葉の里二丁目・三丁目」の地名のもとに整然と並んだ建物が見える。地名や建物の形状から住宅団地が開発されていることがわかる。したがって、「工業団地」は誤り。工場（団地）であれば、工場名の表記もしくは工場の地図記号が描かれているはずである。

問5 35 正解は①

広島市は、中国・四国地方の中核都市であるうえ、自動車工業をはじめとした工業立地も見られるため、他の都市に比べて卸売業・製造業が高度に集積している。したがって、「1人当たりの卸売業年間商品販売額」や「1人当たりの製造品出荷額」が大きい①が正解である（一方、都市化の進行により「農業産出額」はごくわずかになっている）。

なお、モモやブドウなどの果実をはじめとする農業生産が盛んな岡山市は「農業産出額」が大きい④、四国の中心都市として高等裁判所をはじめとする行政機関や企業の支店が集まり中心地機能をもつため卸売業が盛んな高松市は「1人当たりの卸売業年間商品販売額」が大きい③、みかんなどの農業生産は盛んだが4都市のうち最も工業地域から遠く中心地機能の小さい松山市は②に該当する。

問6 36 正解（誤っているもの）は③

地図を丁寧に見て、1つ1つの選択肢を吟味すれば確実に正解にたどり着く問題である。

- ③ 誤り。1985年と1995年を比べて、中国地方の○印の数は変わっていない。
- ① 正しい。太平洋ベルトとは、南関東から九州北部を結ぶ一連の工業地域・地帯である。東から京浜・中京・阪神・北九州の各工業地帯と、その周辺や間に成立する京葉・東海・瀬戸内の各工業地域を含む。
- ② 正しい。1985年では、北関東（群馬県・栃木県など）や東海地方の愛知県などで増えている。
- ④ 正しい。2006年では、埼玉県や栃木県で減少している。
なお、近年では福岡県や大分県に自動車工場が立地しており、新しい集積が見られる。